

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
5034	明治36年	秋の部	秋立や参合はして朝茶の湯	立秋	時候
5035	明治36年	秋の部	衰や粥の香匂ふけさの秋	今朝の秋	時候
5036	明治36年	秋の部	墓参途に故人と邂逅す	墓参	人事
5037	明治36年	秋の部	墓参竹馬の友の墓荒れたり	墓参	人事
5038	明治36年	秋の部	一銭のみそはき買へり墓参	墓参	人事
5039	明治36年	秋の部	墓参狂女に道をゆつりけり	墓参	人事
5040	明治36年	秋の部	芙蓉黄也家相見てゐる知らぬ老	芙蓉	植物
5041	明治36年	秋の部	宮愁や露にたへたる白芙蓉	芙蓉	植物
5042	明治36年	秋の部	秋の螢石山寺の石の上	秋の螢	動物
5043	明治36年	秋の部	なかなか月にあかき夜や扇置く	秋扇	人事
5044	明治36年	秋の部	朝兒や粥煮こぼるゝ獨すみ	朝顔	植物
5045	明治36年	秋の部	朝兒や垣をへだてゝ川千鳥	朝顔	植物
5046	明治36年	秋の部	秋の螢女は夜を淋しがる	秋の螢	動物
5047	明治36年	秋の部	攝待や関羽威名華夏に震ふ	攝待	人事
5048	明治36年	秋の部	分限者の榎も古き門茶哉	攝待	人事
5049	明治36年	秋の部	撰待もはや夕風となりにけり	攝待	人事
5050	明治36年	秋の部	木槿白し一朝雨忽ち晴る	木槿	植物
5051	明治36年	秋の部	とんぼの目蓼の花などうつりけり	蜻蛉	動物
5052	明治36年	秋の部	稲妻は知らず踊のかぶり哉	踊	人事
5053	明治36年	秋の部	七夕や子供は餅をうれしがり	七夕	人事
5054	明治36年	秋の部	蓼の花稲にあいたる雀かな	蓼の花	植物
5055	明治36年	秋の部	人魂や消えて芒の五六尺	芒	植物
5056	明治36年	秋の部	少年の旅の首途や初嵐	初嵐	天文
5057	明治36年	秋の部	新涼に謠ひいでたる美音哉	新涼	時候
5058	明治36年	秋の部	星月夜そばの花咲く関ヶ原	蕎麥花	植物
5059	明治36年	秋の部	虫合はしめに合す雑の虫	虫合	人事
5060	明治36年	秋の部	花芒井手の山吹末かれぬ	芒	植物
5061	明治36年	秋の部	はぜつりの岸の芒を束ねけり	鯨釣	人事
5062	明治36年	秋の部	靱すりや芭蕉は月を見ておはす	靱摺	人事
5063	明治36年	秋の部	梨の皮黍の殻月は傾きぬ	雑	雑
5064	明治36年	秋の部	玉川の鮎さびたりな草紅葉	草錦	植物
5065	明治36年	秋の部	昼のきり四十八滝渡りけり	霧	天文
5066	明治36年	秋の部	秋の人晴れたる山に上りけり	秋	時候
5067	明治36年	秋の部	案山子の手かゝしの足の冷かさ	案山子	人事
5068	明治36年	秋の部	芋くうて即ち梁の國を去る	芋	植物
5069	明治36年	秋の部	京角力江戸の角力と對しけり	角力	人事
5070	明治36年	秋の部	末枯や北風つよく当る山	末枯	植物
5071	明治36年	秋の部	秋晴の夕空さむくなりゆきぬ	秋晴	天文
5072	明治36年	秋の部	花野つきて芒に人のかくれけり	花野	地理
5073	明治36年	秋の部	秋のもの小庵に鱸鮮か也	鱸	動物
5074	明治36年	秋の部	著述家の小間を得て鳴子引	鳴子	人事
5075	明治36年	秋の部	白きもの衣桁の衣も夜寒哉	夜寒	時候
5076	明治36年	秋の部	毛見の衆の芋を貪りくらひけり	毛見	人事
5077	明治36年	秋の部	鳴く虫のみゝじも秋の恋歌かな	蟲	動物
5078	明治36年	秋の部	鶏頭に桐の廣葉の落尽す	鶏頭	植物
5079	明治36年	秋の部	鶏頭に弓引く遊びしたりけり	鶏頭	植物
5080	明治36年	秋の部	門口に野分の後木の葉かな	野分	天文
5081	明治36年	秋の部	月蝕の草木尽く秋也	秋	時候

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
5082	明治36年	秋の部	月今宵芙蓉の如き女かな	月	天文
5083	明治36年	秋の部	月むかし鳥鵲南に飛ぶを見る	月	天文
5084	明治36年	秋の部	名月や風吹送る子夜の歌	名月	天文
5085	明治36年	秋の部	名月の吾志海の如し	名月	天文
5086	明治36年	秋の部	名月や古人山高きを厭はず	名月	天文
5087	明治36年	秋の部	月今宵ひさごの米もあふれけり	月	天文
5088	明治36年	秋の部	商人は商人兒の月見哉	月見	人事
5089	明治36年	秋の部	鉄笛や月下征人三十萬	月	天文
5090	明治36年	秋の部	月蝕の午前一時やそぞろ寒	そぞろ寒	時候
5091	明治36年	秋の部	秋風や三千年の坐禪石	秋の風	天文
5092	明治36年	秋の部	山買ひて山見めくれバ渡鳥	渡鳥	動物
5093	明治36年	秋の部	新道を馬車の往來やそばの花	蕎麥花	植物
5094	明治36年	秋の部	毛見衆に後るゝ人や囁きぬ	毛見	人事
5095	明治36年	秋の部	寺のちご間に棗を拾ひけり	棗	植物
5096	明治36年	秋の部	市に買ふ夜寒の魚や生きてあり	夜寒	時候
5097	明治36年	秋の部	新走世は草花の好時節	新酒	人事
5098	明治36年	秋の部	さびしさに紅葉を焚いて遊びけり	紅葉	植物
5099	明治36年	秋の部	名月や机の上の梨の影	名月	天文
5100	明治36年	秋の部	紅葉散て巖角いよゝ現はれぬ	散紅葉	植物
5101	明治36年	秋の部	水とれば佛もへちまもなかりけり	糸瓜	植物
5102	明治36年	秋の部	大方の菊きり尽す十三夜	後の月	天文
5103	明治36年	秋の部	行秋の我が病膏肓に入る	行秋	時候
5104	明治36年	秋の部	歡をなすよく幾日ぞ扇置く	秋扇	人事
5105	明治36年	秋の部	扇置いて且作りけり子夜の歌	秋扇	人事
5106	明治36年	秋の部	婆娑と落つ物の葉や蛇穴に入る	蛇穴に入る	動物
5107	明治36年	秋の部	蛇は穴に風落々と鳴りにけり	蛇穴に入る	動物
5108	明治36年	秋の部	穴に入る蛇のまぼろしまんじゅさけ	蛇穴に入る	動物
5109	明治36年	秋の部	蛇穴に入るが如しとトしけり	蛇穴に入る	動物
5110	明治36年	秋の部	其糞奇也蛇穴に入らんとす	蛇穴に入る	動物
5111	明治36年	秋の部	風前の玉樹日の秋人立てり	秋の日	天文
5112	明治36年	秋の部	紅葉深くよき水絶えず流れけり	紅葉	植物
5113	明治36年	秋の部	昔火を噴きし山也むら紅葉	紅葉	植物
5114	明治36年	秋の部	絶頂にめづらしき紅葉一木かな	紅葉	植物
5115	明治36年	秋の部	日の光白き野分の雲間哉	野分	天文
5116	明治36年	秋の部	秋風の刀段々と折れにけり	秋の風	天文
5117	明治36年	秋の部	蓬萊や木実遊ぶ童男女	木の實	植物
5118	明治36年	秋の部	虫いろ / \戀なればこそみゝづ鳴け	蟲	動物
5119	明治36年	秋の部	恋無常秋の夕となりけり	秋の暮	時候
5121	明治36年	秋の部	秋の山此国豆の如くなり	秋の山	地理
5123	明治36年	秋の部	草の実も木の実も俳諧秋の季ぞ	雑	雑
5125	明治36年	秋の部	猶存す芭蕉葉上古時の花	芭蕉	植物
5126	明治36年	秋の部	芭蕉花あり又碧巖を把て讀む	芭蕉の花	植物
5127	明治36年	秋の部	松間に寺あり芭蕉花ひらく	芭蕉の花	植物
5128	明治36年	秋の部	花をつけし芭蕉や小鳥親まず	芭蕉の花	植物
5129	明治36年	秋の部	時ならぬ霰芭蕉の花黄なり	芭蕉の花	植物
5130	明治36年	秋の部	月明らかに芭蕉の花を照らしけり	芭蕉の花	植物
5131	明治36年	秋の部	芭蕉の花出羽の小春を咲きにけり	芭蕉の花	植物
5132	明治36年	秋の部	さゝげ來る芭蕉の花や人僧也	芭蕉の花	植物

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
5133	明治36年	秋の部	裂盡す芭蕉に花の大なり	芭蕉の花	植物
5134	明治36年	秋の部	剪落す芭蕉の花や秋の風	芭蕉の花	植物
5433	明治37年	秋の部	踏み迷ふ山女郎花稀にさく	女郎花	植物
5434	明治37年	秋の部	荻苅りて漁家の趣秋老いぬ	荻	植物
5435	明治37年	秋の部	醸し得て恰もよし濁酒	濁酒	人事
5436	明治37年	秋の部	蛇穴に入ると喩へて帰省哉	蛇穴に入る	動物
5437	明治37年	秋の部	蝦夷菊の花や靱する家貧し	蝦夷菊	植物
5438	明治37年	秋の部	山僧や木槿白きに嗽ぎ	木槿	植物
5439	明治37年	秋の部	山寺や月見てあれば栗鼠のなく	月	天文
5440	明治37年	秋の部	新蕎麥や俳諧も亦華かに	新蕎麥	人事
5441	明治37年	秋の部	秋寒に驚く儒者の葛衣哉	秋寒	時候
5442	明治37年	秋の部	寒山の胡座さびしや蔦紅葉	蔦紅葉	植物
5444	明治37年	秋の部	秋の日の帰心いらだつ船路かな	秋の日	天文
5445	明治37年	秋の部	山門秋日粉蝶を藏しけり	秋の日	天文
5446	明治37年	秋の部	日の秋の燕子に傷む心かな	秋の日	天文
5447	明治37年	秋の部	秋の日の没して魚竜黙しけり	秋の日	天文
5448	明治37年	秋の部	秋の日の既にして射る承露盤	秋の日	天文
5449	明治37年	秋の部	秋の日の芙蓉に薄き辺土かな	秋の日	天文
5450	明治37年	秋の部	秋の日の江湖に落ちて一漁翁	秋の日	天文
5451	明治37年	秋の部	日の秋や鸚鵡驚く木實の香	秋の日	天文
5452	明治37年	秋の部	紅葉さむし剣を仗き荊軻行く	紅葉	植物
5453	明治37年	秋の部	鎌倉の山めぐりすや花芒	芒	植物
5454	明治37年	秋の部	初鮭の吉例神に捧ぐなり	鮭	動物
5455	明治37年	秋の部	秋晴の水の鏡やかちわたり	秋晴	天文
5456	明治37年	秋の部	さび鮎や疝氣を語る樵者漁者	鯖鮎	動物
5457	明治37年	秋の部	落し水早く日陰の山田哉	落し水	地理
5458	明治37年	秋の部	よべの虫蚊帳をたゝめば飛にけり	蟲	動物
5459	明治37年	秋の部	虫なくや夜は兵書に目をさらす	蟲	動物
5460	明治37年	秋の部	長が宿虫きく荒れと成にけり	蟲	動物
5461	明治37年	秋の部	唐黍の葉末に虫の高音哉	蟲	動物
5462	明治37年	秋の部	掛物に虫が来てなく獨坐哉	蟲	動物
5463	明治37年	秋の部	秋涼し葛の葉裏を見る程に	新涼	時候
5464	明治37年	秋の部	新涼に猶愛す蝸の翠哉	新涼	時候
5465	明治37年	秋の部	新涼に生れて鳴きぬ朝の蟬	新涼	時候
5466	明治37年	秋の部	秋涼し坐に盆石の潤ヒ	新涼	時候
5467	明治37年	秋の部	秋涼し宮女牽牛花を詠ず	新涼	時候
5468	明治37年	秋の部	虫枯の山田の毛見も終りけり	毛見	人事
5469	明治37年	秋の部	毛見済で社日の酒の旨き哉	毛見	人事
5470	明治37年	秋の部	毛見の衆に三戸の村の恐れけり	毛見	人事
5471	明治37年	秋の部	毛見の衆のにく / \ しさよ長羽織	毛見	人事
5472	明治37年	秋の部	大庭をとよもす風や駒迎	駒迎	人事
5473	明治37年	秋の部	小鳥狩川の中洲へ渡りけり	小鳥狩	人事
5474	明治37年	秋の部	立たぬ鳴西上人が歌の屑	鳴	動物
5475	明治37年	秋の部	葉葡萄の月にましらを逸しけり	月	天文
5476	明治37年	秋の部	戸を叩く狸来ずなり夜寒哉	夜寒	時候
5477	明治37年	秋の部	枕上の白湯冷かに夜明けたり	冷か	時候
5478	明治37年	秋の部	秋の霜木末の蜜柑色づきぬ	秋の霜	天文
5479	明治37年	秋の部	酒尽きて鯉漬猶少しあり	鯉漬	人事

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
5480	明治37年	秋の部	鳴く蚯蚓東に在れば東華坊	蚯蚓鳴く	動物
5481	明治37年	秋の部	猿酒や葛藟之を掩ひけり	猿酒	人事
5482	明治37年	秋の部	足三たび宰相の門に入れば秋	秋	時候
5483	明治37年	秋の部	芦の花舟ありと見えて人語哉	蘆の花	植物
5484	明治37年	秋の部	芦の花水清うして魚住まず	蘆の花	植物
5485	明治37年	秋の部	未枯れて真菰は寒し芦の花	蘆の花	植物
5486	明治37年	秋の部	芦の花石碣村の月見か南	蘆の花	植物
5487	明治37年	秋の部	去來忌や心ゆく程秋の風	去來忌	人事
5488	明治37年	秋の部	去來忌の夜更けて門を叩く音	去來忌	人事
5489	明治37年	秋の部	去來忌の庵の客只一人か南	去來忌	人事
5490	明治37年	秋の部	名月やあたりは暗き杉林	名月	天文
5491	明治37年	秋の部	月前の雲に老杜の愁かな	月	天文
5492	明治37年	秋の部	山家集相聞の部は月にして	月	天文
5493	明治37年	秋の部	黍老いて此頃の月美なるかな	月	天文
5494	明治37年	秋の部	僧泊めて坐を与へけり月の縁	月	天文
5495	明治37年	秋の部	落尽す梧桐の下や月を見る	月	天文
5496	明治37年	秋の部	芦の花漁人の妻を見たりけり	蘆の花	植物
5497	明治37年	秋の部	去來忌やこゝにも一人粥の客	去來忌	人事
5498	明治37年	秋の部	毛見の衆に機を下らぬ寡哉	毛見	人事
5499	明治37年	秋の部	芋十句一顆をくへば一句か南	芋	植物
5500	明治37年	秋の部	去來忌や月はあれども古簾	去來忌	人事
5501	明治37年	秋の部	破蓮下第の人の寺ごもり	破蓮	植物
5502	明治37年	秋の部	攝待や人に紛れぬ打虎武松	攝待	人事
5503	明治37年	秋の部	月前の雲や谷風吹上ぐる	月	天文
5504	明治37年	秋の部	墓の月松柏既に摧けたり	月	天文
5505	明治37年	秋の部	片側は女人ばかりや月の宴	月	天文
5506	明治37年	秋の部	帳あげて月に面をかゞやかす	月	天文
5507	明治37年	秋の部	去來忌や昨日の雛の小盃	去來忌	人事
5508	明治37年	秋の部	去來忌や猶見る菊の雛達	去來忌	人事
5509	明治37年	秋の部	雁を射る人かくれけり芦の花	蘆の花	植物
5510	明治37年	秋の部	芦の花八月潮平かに	蘆の花	植物
5511	明治37年	秋の部	芦の花天明に見る蘇子が舟	蘆の花	植物
5512	明治37年	秋の部	芦の花蘇子に随ふ二客あり	蘆の花	植物
5513	明治37年	秋の部	去來忌や蝕み古き弓の弦	去來忌	人事
5514	明治37年	秋の部	去來忌や柿晋問答くりかへす	去來忌	人事
5515	明治37年	秋の部	一湾の芦花や玩家的三兄弟	蘆の花	植物
5516	明治37年	秋の部	故人遠し傾くまでの月を見る	月	天文
5517	明治37年	秋の部	芦の花返照及ぶ水の隈	蘆の花	植物
5518	明治37年	秋の部	膾造る菊も十日の佛かな	菊膾	人事
5519	明治37年	秋の部	月に栗葉葡萄の露をゆりこぼす	月	天文
5520	明治37年	秋の部	鶏頭の根こぎと干しぬ烏瓜	烏瓜	植物
5521	明治37年	秋の部	烏瓜茶の木の老いて花多き	烏瓜	植物
5730	明治38年	秋の部	倚添うて角力美しくし宮柱	角力	人事
5731	明治38年	秋の部	角力取大内山を罷出けり	角力	人事
5732	明治38年	秋の部	小奇麗な女房とつれて角力哉	角力	人事
5733	明治38年	秋の部	河渉る馬の頭や野分吹く	野分	天文
5734	明治38年	秋の部	野分吹いて狭斜の巷乱れけり	野分	天文
5735	明治38年	秋の部	芭蕉裂けて腸を断つ野分哉	野分	天文

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
5736	明治38年	秋の部	芋畑に客引入れて語りけり	芋	植物
5737	明治38年	秋の部	糸瓜あるを知らず主人迂濶なり	糸瓜	植物
5738	明治38年	秋の部	歌の文字猶目に存す捨扇	秋扇	人事
5739	明治38年	秋の部	俳諧は一字を惜む捨扇	秋扇	人事
5740	明治38年	秋の部	御幸過ぎて久しくなりぬ置扇	秋扇	人事
5741	明治38年	秋の部	扇置くや秋海棠に親みて	秋扇	人事
5742	明治38年	秋の部	堂に上る虫や扇を納めけり	秋扇	人事
5743	明治38年	秋の部	振向くや皆初秋の男ぶり	初秋	時候
5744	明治38年	秋の部	舷に面起すや初あらし	初嵐	天文
5745	明治38年	秋の部	新涼の岸離れゆく船路哉	新涼	時候
5746	明治38年	秋の部	初嵐帆網は水に浸りけり	初嵐	天文
5747	明治38年	秋の部	稀に見る玫瑰の実や秋の風	秋の風	天文
5748	明治38年	秋の部	我笠の菅の白さよ秋の水	秋の水	地理
5749	明治38年	秋の部	貝殻や秋の日をふむ海燕	秋の日	天文
5750	明治38年	秋の部	海を見て一人立ちけり秋の峯	秋の山	地理
5751	明治38年	秋の部	わりなしや錨にとまる秋の蝶	秋の蝶	動物
5752	明治38年	秋の部	荒磯やつれなく棄てし野撫子	撫子	植物
5753	明治38年	秋の部	二三尺波を離れて秋の蝶	秋の蝶	動物
5754	明治38年	秋の部	秋の海人ひとり乗る丸木舟	秋の海	地理
5755	明治38年	秋の部	馬に乗る人鄙しさよ女郎花	女郎花	植物
5756	明治38年	秋の部	新涼の庭や桃の実喰棄てし	桃の實	植物
5757	明治38年	秋の部	吟情や鶉啼くべきこのあたり	鶉	動物
5758	明治38年	秋の部	これなん曼珠沙華のたぐひなりけり	曼珠沙華	植物
5759	明治38年	秋の部	君が喰ふ林檎甚だ渋からずや	林檎	植物
5760	明治38年	秋の部	涼しき花となん草の名を知らず	草花	植物
5761	明治38年	秋の部	わらんじを湯本の萩にすてにけり	萩	植物
5762	明治38年	秋の部	四五人に秋の旭や山かつら	秋の日	天文
5763	明治38年	秋の部	此萩に縫がれ / \と教へけり	萩	植物
5764	明治38年	秋の部	秋風や海士が小庭の瘦すゝき	芒	植物
5765	明治38年	秋の部	紺深き朝顔を見る 苫屋哉	朝顔	植物
5767	明治38年	秋の部	巖の心ン冷かなるを覚えけり	冷か	時候
5768	明治38年	秋の部	岩の窪古鼎に湛ふ秋の水	秋の水	地理
5769	明治38年	秋の部	手を揮うて 蚩尤が霧を排しけり	霧	天文
5770	明治38年	秋の部	秋風や氤氳として魚鱉の氣	秋の風	天文
5771	明治38年	秋の部	群類の皆黙しけり秋の声	秋の声	天文
5772	明治38年	秋の部	龍の血の凝りて巖の秋の風	秋の風	天文
5773	明治38年	秋の部	地維缺けて 鳴り込む秋の潮かな	秋の潮	地理
5774	明治38年	秋の部	白帝の岩に弓射る爽氣哉	秋	時候
5775	明治38年	秋の部	鷹の別一たび巖をつかみけり	鷹渡る	動物
5776	明治38年	秋の部	初汐に岩の棧猶高し	初汐	地理
5777	明治38年	秋の部	身に入むや舷を撃つ岩の露	露	天文
5778	明治38年	秋の部	蛇穴に日月の明を奪ふかな	蛇穴に入る	動物
5779	明治38年	秋の部	秋寒し女娼を巖の上に見る	秋寒	時候
5780	明治38年	秋の部	天晴て鶉に躍る鱸かな	鱸	動物
5781	明治38年	秋の部	初汐に鶉の糞を洗ひけり	初汐	地理
5782	明治38年	秋の部	岩に立つ鶉の首白し秋の風	秋の風	天文
5783	明治38年	秋の部	蛟龍の下腹見えつ秋の雲	秋の雲	天文
5784	明治38年	秋の部	岩橋や天傾いて秋の汐	秋の潮	地理

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
5785	明治38年	秋の部	岩に印す巨人の跡や露寒し	露寒	天文
5786	明治38年	秋の部	共工の頭を砕く秋の声	秋の声	天文
5787	明治38年	秋の部	岩に落つ鶉の影や秋の風	秋の風	天文
5788	明治38年	秋の部	秋風や日暮れて上る竜像巖	秋の風	天文
5789	明治38年	秋の部	新涼に堪へず魚飛ぶ頻なり	新涼	時候
5790	明治38年	秋の部	新涼の岩ひたぬるゝ潮かな	新涼	時候
5791	明治38年	秋の部	巖ぬれ巖乾きぬ秋の風	秋の風	天文
5792	明治38年	秋の部	秋涼し岩に寄來る藻汐草	新涼	時候
5793	明治38年	秋の部	岩に波秋を引裂く狂ひかな	秋	時候
5794	明治38年	秋の部	汐を裂く底津岩根や秋の声	秋の声	天文
5795	明治38年	秋の部	岩の骨に秋を刻める姿かな	秋	時候
5796	明治38年	秋の部	秋風の巖を透す響かな	秋の風	天文
5797	明治38年	秋の部	秋官に白竜を紀す古き世ぞ	雑	雑
5798	明治38年	秋の部	偉なる哉巖大なる哉秋の空	秋の空	天文
5799	明治38年	秋の部	秋高く口を開いて笑ひけり	秋高し	天文
5800	明治38年	秋の部	天の川寒風山にかゝりけり	天の川	天文
5801	明治38年	秋の部	來し方の夜は只黒し天の川	天の川	天文
5802	明治38年	秋の部	我宿はいづれの處天の川	天の川	天文
5803	明治38年	秋の部	林檎むいて蚊帳なる人と語りけり	林檎	植物
5804	明治38年	秋の部	林檎むく巧みや旅は語草	林檎	植物
5805	明治38年	秋の部	新涼の燈下や旅の覚えがき	新涼	時候
5807	明治38年	秋の部	着せ綿を襲ねて菊の齢かな	菊	植物
5808	明治38年	秋の部	新涼に吹放たれし胡蝶かな	新涼	時候
5809	明治38年	秋の部	松芒慇懃に茸を採り尽す	茸狩	人事
5810	明治38年	秋の部	晝顔のかたまり咲くや道普請	盆路	人事
5811	明治38年	秋の部	修験者のまなざし曼珠沙華赤し	曼珠沙華	植物
5812	明治38年	秋の部	古靱を磨りぬ宵はた踊るらん	踊	人事
5813	明治38年	秋の部	蘇武が言猶耳にあり秋の風	秋の風	天文
5815	明治38年	秋の部	秋風や蛇を封じて一千年	秋の風	天文
5817	明治38年	秋の部	官人の子等が見あるく燈籠哉	燈籠	人事
5818	明治38年	秋の部	迎火の自らまた燃えにけり	迎火	人事
5819	明治38年	秋の部	よき花に心づよしや墓參	墓參	人事
5820	明治38年	秋の部	葉鶏頭ゆりふせらるゝ嵐哉	雁來紅	植物
5821	明治38年	秋の部	この蘭に入唐の頃をしぬびけり	蘭	植物
5822	明治38年	秋の部	狼の祭や曉の稻妻す	稻妻	天文
5823	明治38年	秋の部	山姥の髪おどろなす草錦	草錦	植物
5824	明治38年	秋の部	河原ありく施餓鬼の僧や蕩の花	施餓鬼	人事
5825	明治38年	秋の部	人となり木槿白きを一枝哉	木槿	植物
5826	明治38年	秋の部	染らざる木槿の色や秋の風	木槿	植物
5827	明治38年	秋の部	去る法師むくげ白きを顧ず	木槿	植物
5828	明治38年	秋の部	山椒の実は只赤し花むくげ	木槿	植物
5829	明治38年	秋の部	白木槿花疎らなる茂かな	木槿	植物
5830	明治38年	秋の部	萬年の天子あらんや月に酔ふ	月	天文
5831	明治38年	秋の部	月前に折ふし梅の落葉哉	月	天文
5832	明治38年	秋の部	赤壁や月に漁人をそゝのかす	月	天文
5833	明治38年	秋の部	月明かに魏呉の分野を照しけり	月	天文
5834	明治38年	秋の部	幾人か回ると月の雲を見る	月	天文
5835	明治38年	秋の部	明月や人に喰はせぬ芋頭	名月	天文

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
5836	明治38年	秋の部	山人の猿を叱咤す谷の月	月	天文
5837	明治38年	秋の部	名月や呉王宮裡の人の眉	名月	天文
5838	明治38年	秋の部	月の雲斐然として章を成す	月	天文
5839	明治38年	秋の部	山の月ひとり越ゆらん君が面	月	天文
5840	明治38年	秋の部	喝々と秋風痰の佛かな	秋の風	天文
5841	明治38年	秋の部	秋の蚊の或は妬婦をさしにけり	秋の蚊	動物
5842	明治38年	秋の部	秋の季の己れ兒なり烏瓜	烏瓜	植物
5843	明治38年	秋の部	芭蕉裂けて百艸ひとしく悲む	破れ芭蕉	植物
5844	明治38年	秋の部	蓼の花酒は温むべくなりぬ	蓼の花	植物
5845	明治38年	秋の部	燕去って孤樓の簾古びけり	秋燕	動物
5846	明治38年	秋の部	易を見る九日の菊の光かな	菊	植物
5847	明治38年	秋の部	水見れば野菊に埋む簞かな	野菊	植物
5848	明治38年	秋の部	渋作り 葎干す日短し	葎干	人事
5849	明治38年	秋の部	実を結ぶ草の裏戸や蝨焼く	蝨	動物
5850	明治38年	秋の部	河渡る人の声あり星月夜	星月夜	天文
5851	明治38年	秋の部	唐黍の風や秋社の戻り人	秋社	人事
5852	明治38年	秋の部	世をあげてふくべに似たる人もなし	瓢	植物
5853	明治38年	秋の部	寥々と冬近き日や野を照す	冬近し	時候
5854	明治38年	秋の部	山僧の指さす方や柿もみぢ	柿紅葉	植物
5855	明治38年	秋の部	蓮の骨智深の酔のさめにけり	破蓮	植物
5856	明治38年	秋の部	梅落葉疾く柳ちる徐ろに	柳散る	植物
5857	明治38年	秋の部	神嘗の祭も知らずいwash引	鱒引	人事
5858	明治38年	秋の部	山の幸柿と易へたる鱒かな	鱒	動物
5859	明治38年	秋の部	鱒引く子等や濱辺の小學校	鱒引	人事
5860	明治38年	秋の部	題目の信者ばかりや鱒引	鱒引	人事
5861	明治38年	秋の部	小男の祖父が指図や鱒引	鱒引	人事
5862	明治38年	秋の部	草市に五文が花のあはれ哉	草市	人事
5863	明治38年	秋の部	稻妻や萬年青小暗き店の隅	稻妻	天文
5864	明治38年	秋の部	七夕のさびし柳の衰へ	七夕	人事
5866	明治38年	秋の部	葛の葉に人悲めり秋の風	秋の風	天文
5867	明治38年	秋の部	草花に汐垂衣しほりけり	草花	植物
5868	明治38年	秋の部	荒波の割れて碎けて裂けて秋	秋	時候
5869	明治38年	秋の部	女郎花角力の羽織ぬれにけり	女郎花	植物
5870	明治38年	秋の部	白扇に己物かきすてにけり	秋扇	人事
5871	明治38年	秋の部	思ひあまり扇の別れ泣にけり	秋扇	人事
5872	明治38年	秋の部	草の舍の母に蚊帳つる角力哉	角力	人事
5873	明治38年	秋の部	萬燈の一時に消ゆる野分哉	野分	天文
5874	明治38年	秋の部	野分して悲しき花となりけり	野分	天文
5875	明治38年	秋の部	上苑の水吹散らす野分哉	野分	天文
5876	明治38年	秋の部	天柱を碎いて秋の神立てり	竜田姫	天文
5877	明治38年	秋の部	電光の岩に碎けて海青し	稻妻	天文
5878	明治38年	秋の部	九頭の龍かと吾に秋寒し	秋寒	時候
5879	明治38年	秋の部	岩柱鰲の足を断って秋	秋	時候
5880	明治38年	秋の部	これ昔帝秋を鑄て成らざりき	秋	時候
5881	明治38年	秋の部	龍の血の凝りて秋風吹きたえず	秋の風	天文
5882	明治38年	秋の部	憤り去る酔人やみゝず鳴く	蚯蚓鳴く	動物
5883	明治38年	秋の部	秋風や天下に傳ふ百八句	秋の風	天文
5884	明治38年	秋の部	朱貴が箭の芦に没して渡鳥	渡鳥	動物

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
5885	明治38年	秋の部	蚊帳の別書巻の灯影あかき哉	秋の蚊帳	人事
5886	明治38年	秋の部	丈草と寝たりし蚊帳の別哉	秋の蚊帳	人事
5887	明治38年	秋の部	写すべき庭の小草や秋涼し	新涼	時候
5888	明治38年	秋の部	無用の長物と糸瓜に歎きけり	糸瓜	植物
5889	明治38年	秋の部	鬼灯を吊して酒もうりにけり	鬼灯	植物
5890	明治38年	秋の部	満園の日や欣々と鳳仙花	鳳仙花	植物
5891	明治38年	秋の部	去る燕女心に悲めり	秋燕	動物
5892	明治38年	秋の部	水の音の絶えざるをきく夜長哉	夜長	時候
5893	明治38年	秋の部	重陽の下僕に故事を教へけり	重陽	人事
5894	明治38年	秋の部	人まれに茱萸かざしけり寒き風	茱萸	植物
5895	明治38年	秋の部	折ふしの雲割れやすし後の月	後の月	天文
5896	明治38年	秋の部	思はずの芒が中や渡鳥	渡鳥	動物
5897	明治38年	秋の部	菊に灯のその趣や古人の句	菊	植物
5898	明治38年	秋の部	秋風やぬかごこぼるゝ路の上	零餘子	植物
5899	明治38年	秋の部	路傍のぬかごこぼれてたまりけり	零餘子	植物
5900	明治38年	秋の部	このふくべ何の誰かに似たりけり	瓢	植物
5901	明治38年	秋の部	今年米五器の古きもめでたけれ	新米	人事
5902	明治38年	秋の部	佛壇の罎を逸す夜寒哉	夜寒	時候
5903	明治38年	秋の部	磽确の山路やぬかごこぼれたり	零餘子	植物
5904	明治38年	秋の部	あか / \ と夜寒の灯かゝげけり	夜寒	時候
5905	明治38年	秋の部	芋汁に社日の酔を作にけり	芋	植物
5906	明治38年	秋の部	最明寺殿とも知らず靱をする	靱摺	人事
6067	明治39年	秋の部	懐の銭冷かにうがひかな	冷か	時候
6184	明治39年	秋の部	秋立や星は柳を遠ざかり	立秋	時候
6185	明治39年	秋の部	刈柴の関路の露を拂ひけり	露	天文
6186	明治39年	秋の部	朝顔や尚伸びまさる小柴垣	朝顔	植物
6187	明治39年	秋の部	朝顔に誰ぞや火を鑽る家の中	朝顔	植物
6188	明治39年	秋の部	朝顔の鉢や電鈴鳴るところ	朝顔	植物
6189	明治39年	秋の部	安じて動ずとする南瓜かな	南瓜	植物
6190	明治39年	秋の部	新涼の疊の上や紙魚を打つ	新涼	時候
6191	明治39年	秋の部	新涼の掌にめず小石かな	新涼	時候
6192	明治39年	秋の部	篋にたま / \ 螢秋涼し	新涼	時候
6193	明治39年	秋の部	ひた / \ と水に木末や初あらし	初嵐	天文
6194	明治39年	秋の部	家低し象潟荒れて天の川	天の川	天文
6195	明治39年	秋の部	花火あかし荒れまさりゆく水驛	花火	人事
6196	明治39年	秋の部	四五本の花火あがりて旅情かな	花火	人事
6197	明治39年	秋の部	萩に笠離愁甚だ濃かに	萩	植物
6198	明治39年	秋の部	古松の薪となりぬ墓まゐり	墓參	人事
6199	明治39年	秋の部	山頂に杖を揮ふや旅の秋	秋	時候
6200	明治39年	秋の部	剛力の面も振らず女郎花	女郎花	植物
6202	明治39年	秋の部	水急に短き芒見て過ぐる	芒	植物
6203	明治39年	秋の部	森來り蟬時雨去る舟はやし	蟬	動物
6204	明治39年	秋の部	嶮悪の山の朽木や秋の風	秋の風	天文
6205	明治39年	秋の部	滝の辺の百合に道なき嶮しさよ	百合	植物
6206	明治39年	秋の部	山迫るところ山飛ぶ蜻蛉哉	蜻蛉	動物
6207	明治39年	秋の部	夕陽の秋明かに山の峽	秋	時候
6208	明治39年	秋の部	蝸に船路せまりぬ最上川	蝸	動物
6209	明治39年	秋の部	蝸や宿坊見えて木下道	蝸	動物

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
6210	明治39年	秋の部	蝸の啼きやめば家に灯かな	蝸	動物
6211	明治39年	秋の部	蝸の樹に混堂の煙哉	蝸	動物
6212	明治39年	秋の部	蝸や九十九森に夕の汐	蝸	動物
6214	明治39年	秋の部	檜笠秋の蠅見る柱かな	秋の蠅	動物
6215	明治39年	秋の部	君が代は秋を用みず蠅叩	秋	時候
6216	明治39年	秋の部	菊に飛べば九日の蠅と興じけり	菊	植物
6217	明治39年	秋の部	草皆の穂に出る色や秋の蠅	秋の蠅	動物
6218	明治39年	秋の部	涼しさに尚打ちて棄つ秋の蠅	秋の蠅	動物
6219	明治39年	秋の部	片われの月待ち得たる夜長かな	夜長	時候
6220	明治39年	秋の部	そこばくの鶏頭吊す貧しくも	鶏頭	植物
6221	明治39年	秋の部	行秋の句屑紙屑賣りにけり	行秋	時候
6222	明治39年	秋の部	我と無我といづれ雀か蛤か	雀蛤となる	動物
6223	明治39年	秋の部	鱸割いて大河の景を誇りけり	鱸	動物
6224	明治39年	秋の部	慈恩寺の塔に人あり秋の雲	秋の雲	天文
6225	明治39年	秋の部	交りの此道棄てず新走	新酒	人事
6226	明治39年	秋の部	賣るものに椽餅もあり秋の風	秋の風	天文
6227	明治39年	秋の部	なも / \ と師やこわづくる野分の夜	野分	天文
6228	明治39年	秋の部	さらぼうて野分に立てり烽火守	野分	天文
6229	明治39年	秋の部	青樓の更に灯ともす野分哉	野分	天文
6230	明治39年	秋の部	野分やむで川明らかに渉りけり	野分	天文
6231	明治39年	秋の部	温泉烟の樹々に裂けゆく野分哉	野分	天文
6232	明治39年	秋の部	荻苳るや水明かに鳥もゐる	荻	植物
6233	明治39年	秋の部	風すさぶ短き荻に旅人かな	荻	植物
6234	明治39年	秋の部	荻鳴らす風や小舟が沖に出る	荻	植物
6235	明治39年	秋の部	出水して荻に風だも無かりけり	荻	植物
6236	明治39年	秋の部	晩風や錨を下ろす荻の窟	荻	植物
6238	明治39年	秋の部	木つゝきの啄き残して君は在り	啄木鳥	動物
6239	明治39年	秋の部	古酒誇る主の菊を盗みけり	菊	植物
6240	明治39年	秋の部	獣を見るべくなりぬ秋の霜	秋の霜	天文
6241	明治39年	秋の部	富みて且つ貴く銀杏落葉哉	銀杏散る	植物
6242	明治39年	秋の部	肌寒は通夜かな人の花作る	肌寒	時候
6243	明治39年	秋の部	鮭きびし名残の月に菊膾	菊膾	人事
6244	明治39年	秋の部	末枯れて惜まるゝ艸もなかりけり	末枯	植物
6245	明治39年	秋の部	末枯るゝ艸や芭蕉は与からず	末枯	植物
6246	明治39年	秋の部	末枯に蹊つくるは獣かな	末枯	植物
6247	明治39年	秋の部	末枯れて築に親しむべくなりぬ	末枯	植物
6248	明治39年	秋の部	早く已に戦さの跡の末枯るゝ	末枯	植物
6249	明治39年	秋の部	唐からし胤を憎む辞あり	唐辛子	植物
6250	明治39年	秋の部	選衣や小さき赤き唐からし	唐辛子	植物
6251	明治39年	秋の部	冷かさ心に知りぬ唐からし	唐辛子	植物
6252	明治39年	秋の部	紫の一本故に唐からし	唐辛子	植物
6253	明治39年	秋の部	太閤は海を渡らず唐からし	唐辛子	植物
6254	明治39年	秋の部	稻妻や芦をかすめて疾き舟	稻妻	天文
6255	明治39年	秋の部	朝兒をまばらに見たり初あらし	朝顔	植物
6256	明治39年	秋の部	草の宿朝兒の主人起きてあり	朝顔	植物
6257	明治39年	秋の部	鷹遠し白露の天の霽の色	白露	時候
6258	明治39年	秋の部	秋涼し夕山越の讀書人	新涼	時候
6259	明治39年	秋の部	新涼の草にうもれぬ聴蛙亭	新涼	時候

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
6260	明治39年	秋の部	秋の気をつんざいて山尖りけり	秋気	時候
6261	明治39年	秋の部	秋涼し白衣の人の徘徊す	新涼	時候
6262	明治39年	秋の部	馬引の馬いましめつ初あらし	初嵐	天文
6263	明治39年	秋の部	高々と鳴子すさまし月明り	鳴子	人事
6264	明治39年	秋の部	鳴子引け穂に出る草の花盛	草花	植物
6265	明治39年	秋の部	草の宿障子白きに夜半の虫	蟲	動物
6266	明治39年	秋の部	曉嵐に杖を揮へり露の空	露	天文
6267	明治39年	秋の部	つき鳴らす金剛杖や草の花	草花	植物
6268	明治39年	秋の部	初秋の星や柳に遠ざかる	初秋	時候
6269	明治39年	秋の部	主藏れ賓行く庭の芭蕉哉	芭蕉	植物
6270	明治39年	秋の部	庭深く数株の芭蕉長じけり	芭蕉	植物
6271	明治39年	秋の部	昔容の髣髴として芭蕉哉	芭蕉	植物
6272	明治39年	秋の部	鳩吹の悠容として吹居たり	鳩吹く	人事
6273	明治39年	秋の部	潮近くひたす并木や星月夜	星月夜	天文
6274	明治39年	秋の部	旧跡に家して芭ばかり哉	芭	植物
6275	明治39年	秋の部	盆の月娘をもたぬ家もなし	盆の月	天文
6276	明治39年	秋の部	要害の地を諳じて薬掘	薬掘	人事
6277	明治39年	秋の部	踊子の色白うして昼居たり	踊	人事
6278	明治39年	秋の部	庭の隅暗きに紫菀ぬきんでし	紫菀	植物
6279	明治39年	秋の部	臨邛の其夜を悔うる砧かな	砧	人事
6280	明治39年	秋の部	初嵐葛の藪かげ小提灯	初嵐	天文
6281	明治39年	秋の部	馬引の提灯小さし初あらし	初嵐	天文
6282	明治39年	秋の部	見る所古き牧場や星月夜	星月夜	天文
6283	明治39年	秋の部	病中に秋海棠を写しけり	秋海棠	植物
6284	明治39年	秋の部	鶏頭の赤きにたぐふ角力哉	角力	人事
6285	明治39年	秋の部	間引菜の落散る畑や兒斜	間引菜	植物
6286	明治39年	秋の部	雨の月何に興じて主客哉	雨の月	天文
6287	明治39年	秋の部	五升程負債かへしぬ今年米	新米	人事
6288	明治39年	秋の部	七草に一草足らず鶉かな	鶉	動物
6289	明治39年	秋の部	片鶉誰ぞや竹枝を口吟む	鶉	動物
6290	明治39年	秋の部	新豆腐賣る家草の錦哉	雑	雑
6291	明治39年	秋の部	茸狩の人々の茸異りぬ	茸狩	人事
6292	明治39年	秋の部	がさこそと烏瓜引く僧都あり	烏瓜	植物
6293	明治39年	秋の部	落ち / \ 月夜となりぬ落シ水	落シ水	地理
6294	明治39年	秋の部	菊作る家に賢き童かな	菊	植物
6295	明治39年	秋の部	駒迎関の清水を尋ねけり	駒迎	人事
6296	明治39年	秋の部	糸すりの菊見る違なかりけり	糸摺	人事
6297	明治39年	秋の部	柿の木に上る子はいを打たぬなり	柿	植物
6298	明治39年	秋の部	金氣衝く五更に起きて讀詩哉	秋気	時候
6299	明治39年	秋の部	蓆干す家の後に尿かな	蓆干	人事
6300	明治39年	秋の部	天徳を糸瓜に生せり長き哉	糸瓜	植物
6301	明治39年	秋の部	八十の祖父と見てゐる糸瓜哉	糸瓜	植物
6302	明治39年	秋の部	二三子が糸瓜の長けを測りけり	糸瓜	植物
6303	明治39年	秋の部	赤菊のむら / \ と咲くつよさ哉	菊	植物
6304	明治39年	秋の部	尊しや八十にして菊作り	菊	植物
6305	明治39年	秋の部	花そばに人恙なく帰村かな	蕎麥花	植物
6306	明治39年	秋の部	懐ろにすべくもあらぬゆみそかな	柚味噌	人事
6307	明治39年	秋の部	唐辛子青き赤きを論じけり	唐辛子	植物

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
6308	明治39年	秋の部	此山の名所も知らず松露掘	松露	植物
6310	明治39年	秋の部	五台山を下れば野草花開く	草花	植物
6582	明治40年	秋の部	初秋や穂になる草の紅一点	初秋	時候
6583	明治40年	秋の部	庭に灌ぐ水の剩りや秋の立つ	立秋	時候
6584	明治40年	秋の部	初秋の尚宵々を出ありきぬ	初秋	時候
6585	明治40年	秋の部	初秋の飯喰うて人と別れけり	初秋	時候
6586	明治40年	秋の部	初秋に採るべき薬名を記す	初秋	時候
6587	明治40年	秋の部	明星や舷にちるあしの露	露	天文
6588	明治40年	秋の部	材木の間を行くや露しめり	露	天文
6589	明治40年	秋の部	露けしやよべの砧のありどころ	露	天文
6590	明治40年	秋の部	灯の色に夜露くだるを悟りけり	露	天文
6591	明治40年	秋の部	朝露のおくまもあらず秋浅し	秋浅し	時候
6592	明治40年	秋の部	露早く乾く葉檜や日の表	露	天文
6593	明治40年	秋の部	草の葉廣草の葉細や露の玉	露	天文
6594	明治40年	秋の部	白露の結ぶと見ればこぼれけり	露	天文
6595	明治40年	秋の部	花揉みて爪を染るも露の中	露	天文
6596	明治40年	秋の部	葉葡萄に酒成る秋を契りけり	葡萄酒醸す	人事
6597	明治40年	秋の部	古道の君待坂や女郎花	女郎花	植物
6598	明治40年	秋の部	七座の一座に咲や女郎花	女郎花	植物
6599	明治40年	秋の部	女郎花水ありさうな処かな	女郎花	植物
6600	明治40年	秋の部	夕立の雲を危み女郎花	女郎花	植物
6601	明治40年	秋の部	禿山の見るものにすや女郎花	女郎花	植物
6602	明治40年	秋の部	魚の眼の岩に危し秋の水	秋の水	地理
6603	明治40年	秋の部	新涼の耳穿つ也山の峽	新涼	時候
6604	明治40年	秋の部	軒近く穂に出る草や星まつり	七夕	人事
6605	明治40年	秋の部	星の戀魚は深きに潜みけり	星合い	人事
6606	明治40年	秋の部	山里は稗田に家す星まつり	七夕	人事
6607	明治40年	秋の部	何願ふ子等かさゝやく星の事	七夕	人事
6608	明治40年	秋の部	思出の梶の葉屑を袂かな	梶の葉	人事
6609	明治40年	秋の部	文机に両の袂や星まつり	七夕	人事
6610	明治40年	秋の部	湖の上に笛吹き止みぬ天の川	天の川	天文
6611	明治40年	秋の部	大沢に声何人ぞ天の川	天の川	天文
6612	明治40年	秋の部	昼越えし山の高きや天の川	天の川	天文
6613	明治40年	秋の部	野にあまる千種の花や天の川	天の川	天文
6614	明治40年	秋の部	桔梗咲く終日庭の日かげかな	桔梗	植物
6615	明治40年	秋の部	萩桔梗句合の序をあやどりぬ	雑	雑
6616	明治40年	秋の部	桔梗はすゝきにまじるべくもなし	桔梗	植物
6617	明治40年	秋の部	古銅器にさす草はあれと白桔梗	桔梗	植物
6618	明治40年	秋の部	家の集に妻が桔梗の一句かな	桔梗	植物
6619	明治40年	秋の部	店先の小桶に花や新豆腐	新豆腐	人事
6620	明治40年	秋の部	沙魚釣らぬ不興もをかし新豆フ	新豆腐	人事
6621	明治40年	秋の部	鶏頭に帘新豆フあり	新豆腐	人事
6622	明治40年	秋の部	清水に誰ぞこもる祇園は新豆腐	新豆腐	人事
6623	明治40年	秋の部	新豆腐に赤飯も焚いて旅祝ふ	新豆腐	人事
6624	明治40年	秋の部	十ヶ寺を詣で果さず新豆フ	新豆腐	人事
6625	明治40年	秋の部	新豆フに朝餉すましぬかしま立ち	新豆腐	人事
6626	明治40年	秋の部	厨にも萩のこぼれや新豆フ	新豆腐	人事
6627	明治40年	秋の部	肺腸の秋を浴くす新豆腐	新豆腐	人事

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
6628	明治40年	秋の部	くさびらを以て酬ひん新豆腐	新豆腐	人事
6629	明治40年	秋の部	一陣の風過るなり毛見の笠	毛見	人事
6630	明治40年	秋の部	毛見の衆に彗星の事申しけり	毛見	人事
6631	明治40年	秋の部	毛見ありと夙に起きたり三家村	毛見	人事
6632	明治40年	秋の部	鏝鏝として毛見の衆を驚かす	毛見	人事
6633	明治40年	秋の部	親と子と普請もすなり毛見の路	毛見	人事
6634	明治40年	秋の部	毛見の衆に郷先生の憤り	毛見	人事
6635	明治40年	秋の部	毛見の衆も鎮守の神に詣でけり	毛見	人事
6636	明治40年	秋の部	毛見の衆と見ゆ榛の木の雨宿り	毛見	人事
6637	明治40年	秋の部	毛見なれば山畑の粟の穂もつかむ	毛見	人事
6638	明治40年	秋の部	どや/ \と毛見来る宿や鶏の鳴く	毛見	人事
6639	明治40年	秋の部	雲霧の山路の菊の大ききよ	菊	植物
6640	明治40年	秋の部	掛稻のよく乾く日や菊の花	菊	植物
6641	明治40年	秋の部	縄きれに束ねあまりし黄菊哉	菊	植物
6642	明治40年	秋の部	高く積む書冊に菊の尚高し	菊	植物
6643	明治40年	秋の部	菊つむで喪中の厨ぬれにけり	菊	植物
6644	明治40年	秋の部	東宮の菊に四皓の遊かな	菊	植物
6645	明治40年	秋の部	一村の長して菊をつくりけり	菊	植物
6646	明治40年	秋の部	菊折らんと出づれば風や襟を吹く	菊	植物
6647	明治40年	秋の部	階前に菊の光や三槐堂	菊	植物
6648	明治40年	秋の部	里人の安息日や菊盛	菊	植物
6649	明治40年	秋の部	小高みな先人の碑や稻の中	稻	植物
6650	明治40年	秋の部	これ蘭これ菊群賢一堂	雑	雑
6651	明治40年	秋の部	白石磊々として高きに登りけり	登高	人事
6652	明治40年	秋の部	明日植ゑる苗圃の杉や秋の蝶	秋の蝶	動物
6653	明治40年	秋の部	よき程に聳ゆる山や木子狩	茸狩	人事
6654	明治40年	秋の部	日あるうちに蕪を刈りけり秋の晴	秋晴	天文
6655	明治40年	秋の部	舌上に會して首肯づく柚味噌哉	柚味噌	人事
6656	明治40年	秋の部	登高の我に随ふ客もなし	登高	人事
6657	明治40年	秋の部	須臾にして暑移りぬ百舌の贅	鴟の贅	動物
6658	明治40年	秋の部	店に鮭あり炭焼の娘来る	鮭	動物
6659	明治40年	秋の部	大杉に照る日や杉の実を干しぬ	杉の実	植物
6660	明治40年	秋の部	菊に早く来つ筆墨の小商人	菊	植物
6661	明治40年	秋の部	門柱徒に大きく柳ちる	柳散る	植物
6662	明治40年	秋の部	杉の実を採る聾あり百舌の鳴	杉の実	植物
6663	明治40年	秋の部	杉植ん下草紅葉焼にけり	草錦	植物
6664	明治40年	秋の部	秋の日を避けてか栗鼠の枝移り	秋の日	天文
6665	明治40年	秋の部	木の実落つ中にぢゝめくましら哉	木の實	植物
6666	明治40年	秋の部	山囲み方なる原や末枯るゝ	末枯	植物
6667	明治40年	秋の部	鑛山の香に耐へすとや女郎花	女郎花	植物
6668	明治40年	秋の部	相逢うて相語る林檎紅に	林檎	植物
6919	明治41年	秋の部	餅もなき垢離場の店や初嵐	初嵐	天文
6920	明治41年	秋の部	月影や突兀として芋の山	芋	植物
6921	明治41年	秋の部	川缺の淵となりゆく花野哉	花野	地理
6922	明治41年	秋の部	餘白ある一日記事や虫の声	蟲	動物
6923	明治41年	秋の部	登嶽を果さぬ悔や扇置く	秋扇	人事
6924	明治41年	秋の部	大銀杏の後の銀杏や放生会	放生会	人事
6926	明治41年	秋の部	米女鬼山の草花咲けば忌日なり	草花	植物

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
6927	明治41年	秋の部	展墓記事新そばの句を夾みけり	新蕎麥	人事
6928	明治41年	秋の部	俳席の掟柿食ふ法もあり	柿	植物
6929	明治41年	秋の部	方円の筆法風の芭蕉かな	芭蕉	植物
6930	明治41年	秋の部	御本陣の跡料理屋の芭蕉かな	芭蕉	植物
6931	明治41年	秋の部	神去るが如く芭蕉裂けつくす	芭蕉	植物
6932	明治41年	秋の部	釣るはぜの小さきよりす郷思かな	鯿釣	人事
6933	明治41年	秋の部	一川を領しはぜ釣るものは誰ぞ	鯿釣	人事
6934	明治41年	秋の部	吾に勝るものなしとはぜつり返る	鯿釣	人事
6935	明治41年	秋の部	誰々の祖父ども出会ふ墓参	墓参	人事
6936	明治41年	秋の部	人知らぬ鬢の二毛や墓参	墓参	人事
6937	明治41年	秋の部	地つゞきの山買ひ得たり墓参	墓参	人事
6938	明治41年	秋の部	登山者の下りつきし宿や灯籠吊る	燈籠	人事
6939	明治41年	秋の部	双棲の白き頭や軒灯籠	燈籠	人事
6940	明治41年	秋の部	草分の家すたれゆく灯籠哉	燈籠	人事
6941	明治41年	秋の部	家構骨太にして釣灯籠	燈籠	人事
6942	明治41年	秋の部	川上に橋ありと見ゆ灯籠哉	燈籠	人事
6943	明治41年	秋の部	奠都の議此地を相す稲の花	稲の花	植物
6944	明治41年	秋の部	木工頭に出羽の案内や稲の花	稲の花	植物
6945	明治41年	秋の部	碑の事に里をこぞりぬ稲の花	稲の花	植物
6946	明治41年	秋の部	一竿の沙魚には早し稲の花	稲の花	植物
6947	明治41年	秋の部	郷倉の礎置くや稲の花	稲の花	植物
6949	明治41年	秋の部	川下す木々相撃つやむら芒	芒	植物
6950	明治41年	秋の部	峰渡り笠に雲飛ぶ秋涼し	新涼	時候
6952	明治41年	秋の部	湖成りし神話も果てゝ天の川	天の川	天文
6953	明治41年	秋の部	魚の眼に秋知るか石に來去る	秋	時候
6954	明治41年	秋の部	秋と云へば波打越しぬ御座の石	秋	時候
6955	明治41年	秋の部	初嵐湖の浮木の浮沈	初嵐	天文
6957	明治41年	秋の部	湖の魚と我山の雲と君共に秋	秋	時候
6959	明治41年	秋の部	女人許す垢離場詣や初嵐	初嵐	天文
6960	明治41年	秋の部	三分缺けし月の出でけり扇置く	秋扇	人事
6961	明治41年	秋の部	水郷と云へど山聳ゆ秋扇	秋扇	人事
6962	明治41年	秋の部	親骨に刻める山や秋扇	秋扇	人事
6963	明治41年	秋の部	葉廣草裂けし夜荒れや扇おく	秋扇	人事
6964	明治41年	秋の部	思ふことしのぶの乱れ秋扇	秋扇	人事
6965	明治41年	秋の部	留むれど遂に去る西瓜白かりし	西瓜	植物
6966	明治41年	秋の部	硯洗へば恰も西瓜到來す	西瓜	植物
6967	明治41年	秋の部	灯に嵐しづまりて割く西瓜哉	西瓜	植物
6968	明治41年	秋の部	水中の■食西瓜の出來あしき	西瓜	植物
6969	明治41年	秋の部	秋声の賦の一佳句や西瓜割く	西瓜	植物
6970	明治41年	秋の部	鳴子引讀尽す天下無用の書	鳴子	人事
6971	明治41年	秋の部	有用の書一部藏す夜学哉	夜学	人事
6972	明治41年	秋の部	帰急ぐ燕や草の穂長なる	秋燕	動物
6973	明治41年	秋の部	高光る日の皇子なれや菊苔む	菊	植物
6974	明治41年	秋の部	售らざる文自ら序す雁の声	雁	動物
6975	明治41年	秋の部	古墳発く博士一行や雁渡る	雁	動物
6976	明治41年	秋の部	同文の国漫遊や雁をきく	雁	動物
6977	明治41年	秋の部	建碑式の人散りト\や雁渡る	雁	動物
6978	明治41年	秋の部	門額を始めて掲ぐ雁の声	雁	動物

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
6979	明治41年	秋の部	底ずれの舟洲につくや渡鳥	渡鳥	動物
6980	明治41年	秋の部	刈棄の莖細の蕎麦や鳥渡る	渡鳥	動物
6981	明治41年	秋の部	朝顔の手柴引く日や渡鳥	渡鳥	動物
6982	明治41年	秋の部	山を出づる帆柱の材や渡鳥	渡鳥	動物
6983	明治41年	秋の部	築に網底見ゆる川や鳥渡る	渡鳥	動物
7136	明治42年	秋の部	林相の図をたゝみけり天の川	天の川	天文
7137	明治42年	秋の部	案内宿も草分にして天の川	天の川	天文
7138	明治42年	秋の部	聾の博士泊めけり天の川	天の川	天文
7139	明治42年	秋の部	晒菅野を白うせり天の川	天の川	天文
7140	明治42年	秋の部	今を猶魚住まぬ湖や天の川	天の川	天文
7141	明治42年	秋の部	魂棚に魂来ますらん庭の月	魂祭	人事
7142	明治42年	秋の部	魂祭る親は八十九十かな	魂祭	人事
7143	明治42年	秋の部	魂棚もかざりて親子二人かな	魂祭	人事
7144	明治42年	秋の部	魂まつり女同胞住めりけり	魂祭	人事
7145	明治42年	秋の部	一睡の不覚を思ふ天の川	天の川	天文
7146	明治42年	秋の部	牧を出て驛逋の駿や天の川	天の川	天文
7147	明治42年	秋の部	先づ関に入るもの覇たり天の川	天の川	天文
7148	明治42年	秋の部	豪溪に居て豪溪を凶す天の川	天の川	天文
7149	明治42年	秋の部	陣法の古今に通ず天の川	天の川	天文
7150	明治42年	秋の部	天の川笠ぬふ菅を白うせり	天の川	天文
7151	明治42年	秋の部	咸陽の火のほ流れて天の川	天の川	天文
7152	明治42年	秋の部	談笑平日の如く柿の事	柿	植物
7153	明治42年	秋の部	去来忌や紙魚猶はしる後の雛	去来忌	人事
7154	明治42年	秋の部	一時遊ぶ大竹原や落柿舎忌	去来忌	人事
7155	明治42年	秋の部	角力鑑増補の借も夜半の秋	秋の夜	時候
7156	明治42年	秋の部	茶焙ジは文具かあらず夜話の秋	秋の夜	時候
7157	明治42年	秋の部	墓荒れし昨日を憶ふ夜寒か南	夜寒	時候
7158	明治42年	秋の部	自然林の説に一致す夜寒かな	夜寒	時候
7159	明治42年	秋の部	芋掘れとそゝのかされて掘りに行く	芋	植物
7160	明治42年	秋の部	諄々と貯蓄すゝめも芋煮る間	芋	植物
7161	明治42年	秋の部	代受くること肯はず芋の主	芋	植物
7162	明治42年	秋の部	千両の馬を隣に芋の秋	芋	植物
7163	明治42年	秋の部	芋の饗再び句論強ひらるゝ	芋	植物
7164	明治42年	秋の部	毒茸と決めて寐ねたる夜寒哉	夜寒	時候
7165	明治42年	秋の部	粟飯を山と盛らるゝ夜寒かな	夜寒	時候
7166	明治42年	秋の部	祭衣裳箆筒に納む夜寒哉	夜寒	時候
7167	明治42年	秋の部	頭々顛々耳聳つる秋の風	秋の風	天文
7259	明治43年	秋の部	一穂の水を抽んず解夏旦	解夏	人事
7260	明治43年	秋の部	漫々地夜雨に漲る解夏の河	解夏	人事
7262	明治43年	秋の部	裏のあたり鶏頭見れば芋見れば	雑	雑
7264	明治43年	秋の部	新渋の句集の點者うべなひぬ	新渋	人事
7265	明治43年	秋の部	鶏頭を大きく作るこのあるじ	鶏頭	植物
7266	明治43年	秋の部	手を分つ辞艶なり露寒に	露寒	天文
7267	明治43年	秋の部	館下に尚住む十戸露しぐれ	露しぐれ	天文
7268	明治43年	秋の部	獲物活きて築人かへる露空に	露	天文
7269	明治43年	秋の部	朝露や石を神にす素蟬蠅	露	天文
7270	明治43年	秋の部	山を離れて山の威容や露をふむ	露	天文
7271	明治43年	秋の部	古戦場の講話一樹の露時雨	露しぐれ	天文

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
7272	明治43年	秋の部	然諾は露に馬蹄を軽くせり	露	天文
7274	明治43年	秋の部	柿貰ふ帰路を約せり朝晴に	柿	植物
7275	明治43年	秋の部	色白に汗して里婦や晴るゝ秋	秋晴	天文
7276	明治43年	秋の部	館といふ名に知るや鳥渡る音	渡鳥	動物
7277	明治43年	秋の部	治水策いかにあるべき雁の聲	雁	動物
7278	明治43年	秋の部	知る人に逢はずなりゆく野菊哉	野菊	植物
7279	明治43年	秋の部	船路取りし人を懐ふや花野晴	花野	地理
7280	明治43年	秋の部	語音鈍き老幼に柿饒かなり	柿	植物
7281	明治43年	秋の部	死ぬべかりしを又日の晴や粟黄む	粟	植物
7283	明治43年	秋の部	人に逢へば稔らぬ話野菊見て	野菊	植物
7284	明治43年	秋の部	近道を教へて訥や野菊あり	野菊	植物
7285	明治43年	秋の部	耳にせし巨木なし野菊咲つゞく	野菊	植物
7286	明治43年	秋の部	高山を右に行く / \ 野菊晴	野菊	植物
7287	明治43年	秋の部	湧く水を徒に見てすぐ野菊哉	野菊	植物
7353	明治44年	秋の部	物そのところを得たり萩桔梗	雑	雑
7355	明治44年	秋の部	真人の柵の獨木に虫静まりぬ	蟲	動物
7356	明治44年	秋の部	刀は傳家の話柄に更けつ虫の聲	蟲	動物
7357	明治44年	秋の部	虫鳴くや硯洗ひて幾夜なる	蟲	動物
7358	明治44年	秋の部	寺にあれば文字も異様に虫の聲	蟲	動物
7359	明治44年	秋の部	樹々古きに住まへば虫の遠音なる	蟲	動物
7361	明治44年	秋の部	秋晴やさる扇屋を陋巷に	秋晴	天文
7362	明治44年	秋の部	君を訪へばげに琅玕居秋晴に	秋晴	天文
7363	明治44年	秋の部	削り荒らの柱歴々と晴るゝ秋	秋晴	天文
7364	明治44年	秋の部	庭石の奇特秋晴の水を吸ふ	秋晴	天文
7365	明治44年	秋の部	刀を見て意を得し一事秋晴に	秋晴	天文
7367	明治44年	秋の部	音訓の双耳穿つや秋の風	秋の風	天文
7369	明治44年	秋の部	真人山の霧を吞吐す誰々ぞ	霧	天文
7371	明治44年	秋の部	邊愁を写す字屑や草苺	草苺	植物
7373	明治44年	秋の部	縁起めく俚語を耳に草紅葉	草錦	植物
7375	明治44年	秋の部	地図による水の源月に語りけり	月	天文
7376	明治44年	秋の部	月に知る釣針に秘訣あることを	月	天文
7377	明治44年	秋の部	鉄をきたえて獲る所あり月を見る	月	天文
7379	明治44年	秋の部	月に歩して菊の柳に意を致す	月	天文
7380	明治44年	秋の部	紫苑高し千たび鍛えし鉄匂ふ	紫苑	植物
7382	明治44年	秋の部	菊の花に生残る小蜂吾に飛ぶ	菊	植物
7383	明治44年	秋の部	菊に貧し雨姿風態の夙に起き	菊	植物
7384	明治44年	秋の部	菊の家柳の家の子等賢愚なし	菊	植物
7385	明治44年	秋の部	菊に開く柴門芭蕉に暗所あり	菊	植物
7386	明治44年	秋の部	旧友の衣裳美なり菊明らか	菊	植物
7481	明治45年	秋の部	山の月野の月賤が袖の露	露	天文
7483	明治45年	秋の部	愁ふれバー一夜の老や案山子見る	案山子	人事
7485	明治45年	秋の部	鯨つりに意動けど雑書讀みあかぬ	鯨釣	人事
7486	明治45年	秋の部	鯨焼くは故人の子也草の宿	鯨	動物
7487	明治45年	秋の部	白雲一片鯨釣を見ぬ里もなし	鯨釣	人事
7488	明治45年	秋の部	鯨つりに説くに鱸の巨口哉	鯨釣	人事
7489	明治45年	秋の部	鯨つりの竿かあらぬか蘆の花	鯨釣	人事
7490	明治45年	秋の部	鯨焼いて残る燕の飛ぶと見し	鯨	動物
7491	明治45年	秋の部	野分江を過ぎて幾日か鯨肥えし	鯨	動物

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
7493	明治45年	秋の部	既にして例の松野路の秋晴るゝ	秋晴	天文
7494	明治45年	秋の部	弓の事は知らず秋晴の矢遠き	秋晴	天文
7495	明治45年	秋の部	明日の事君しか云へど晴るゝ秋	秋晴	天文
7496	明治45年	秋の部	漁者に就いて聞けるふし / \ 秋晴るゝ	秋晴	天文
7497	明治45年	秋の部	秋霞は晴の兆ぞ例の杉	秋霞	天文
7498	明治45年	秋の部	画題巨人の跡とあり晴るゝ秋の會	秋晴	天文
7500	明治45年	秋の部	みそなはせ我渋柿の生るは / \	柿	植物
7502	明治45年	秋の部	故人誰々因に柿の句をつくる	柿	植物
7503	明治45年	秋の部	柿青き久し釣來ては鯊をやく	柿	植物
7504	明治45年	秋の部	飽喫し去てその後柿に便りなし	柿	植物
7505	明治45年	秋の部	北国の柿渋く議論上下せり	柿	植物
7506	明治45年	秋の部	之子生れてまづ逢へり柿の秋晴に	柿	植物
7508	明治45年	秋の部	雁を射る眉目を誰にたくらべむ	雁	動物
7510	明治45年	秋の部	柿の句を作り了すこの風雨あり	柿	植物
7511	明治45年	秋の部	雷雨秋也乾坤を朗かにせり	秋	時候
7512	明治45年	秋の部	灯秋也尚断簡の文字を解せず	秋	時候
7514	明治45年	秋の部	一隻眼睛秋海棠も咲く	秋海棠	植物
7515	明治45年	秋の部	野菊にもとり / \ 名あり何とやら	野菊	植物
7516	明治45年	秋の部	着せ綿をふくと云ふ菊の荅あり	菊	植物
7518	明治45年	秋の部	達磨忌の頭の中や江渺々	達磨忌	人事
7520	明治45年	秋の部	秋晴れの山下るるも獨也	秋晴	天文
7522	明治45年	秋の部	湯治帰り景に溢美や新酒酌む	新酒	人事
7523	明治45年	秋の部	茱萸つみのなどて新酒の馬追はぬ	新酒	人事